

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 真誠会	代表者	理事長 前田 浩寿	法人・ 事業所 の特徴	医療法人・社会福祉法人真誠会は、保健・医療・福祉のサービスに対応したホスピタウンネットワークと、多くの資格取得者で構成されております。真誠会医療福祉連携センターを中心に、米子（河崎）、弓浜（大崎）、富益、和田それぞれがネットワークで繋がり、サービスの提供を行っております。					
事業所名	看護小規模多機能型 居宅介護真誠会 ふる里	管理者	塙田美春							

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	0人	10人	0人	0人	1人	0人	2人	2人	16人

項目	前回の改善計画（自己評価）	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	① 年間を通じてふる里職員全員に、事業所自己評価9項目の改善計画を実践する。 ①12月の地域推進会議で外部評価のまとめと総括を公表する。	• 別紙「事業所自己評価・ミーティング様式」参照	• 全職員熱意をもって、改善に向けて努力されている。 • 具体的な目標（改善点）をもって計画され、計画を遂行することで、利用者が安心して生活できるので今後も頑張ってくださいと意見あり。	①事業所自己評価の改善計画の実践状況を、職場会で確認、共有し全職員で取り組む。
B. 事業所のしつらえ・環境	① 環境整備の継続：清潔で居心地の良い空間を継続できる。 ② 1年中と通じて花、野菜の園芸の継続 ③職員駐車場の街燈を設置し明るくしてもらいたい。	• 環境整備に力を入れ取り組み、清潔で居心地の良い空間づくりを継続中。 • 職員駐車場に街燈がLEDになり明るくなった。	• 職員の挨拶、対応も丁寧で好感が持てます。 • 利用者の表情も明るく、良い運営がされていると感じますと意見あり。	①：居心地の良い環境になるよう、事業所内をレイアウト。 ②：ご利用者の安全に配慮し、職員も働きやすい施設となるよう環境整備する。
C. 事業所と地域のかかわり	① 行事「綿作り」「ふる里祭り」「餅つき大会」の開催と地域、保育園・小学校との関わりも継続する。 ② 定期的に公民館と関わり、公民館活動に可能な限り参加する。 ③ふる里便りを地域の回覧版に挟んでもらい、地域の皆様にふる里で業務、役割を認知してもらおう。	• 地域の方や子供達と共同で行事を開催できた。 • 公民館でのイベントにご利用者と一緒に参加できた。 • 公民館活動には参加する機会が少なかった。 • ふる里便りを回覧し、ふる里を認知してもらえるよう取り組んだ。	• 「綿作り」「餅つき大会」への参加や実施、公民館への外出、ふる里便りの回覧等、地域とのつながりに積極的に取り組んでおられると思います。 • 「綿作り」「餅つき大会」では子供さんの参加もあり、世代間交流の機会ともなっており良いと思います。また業所についての理解が深まり、意味深い取り組みだと思いますと意見あり。	①：自治会からの回覧板等から、地域の活動、イベントを情報収集し、地域の行事やイベントへの参加。 ②：ご利用者と一緒に公民館の行事に参加したり、事業所職員が公民館活動に参加し地域との交流を図る。 ③：ふる里便りを回覧し、施設への理解を深め地域資源のひとつとして認識されるよう努める。

				④: 従来から行っている「綿作り」「餅つき大会」の開催を継続。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	① 行政と連携し、各ご利用者の地域民生委員を確認する。民生委員とも連携を図る。	・ご利用者の民生委員の把握、連携に至らなかった。 ・ご利用者の地域の行事やイベントを把握できず参加できていない。	・利用者以外の方への支援も関係機関と連携し、必要時対応されており、地域の中で頼れる存在です。 ・高齢者の多い地域であり、職員の方にはいつも見守りを兼ね、住民の動向を考えて頂いている。 ・地域の行事に利用者の方も方々もよく参加されていると思いますと意見あり。	①: ご利用者が住んでいる地域の行事に参加出来る機会を作る。 ②: ①ができるようご利用者の生活、習慣、なじみの環境、人との繋がりの把握。
E. 運営推進会議を活かした取組み	① 推進会議にて地域の心配・不安な高齢者の聴取・共有。 ② ①で挙がったことを、職場会で共有し支援や対策を検討する。 ③の提案者への報告と次回の推進会議にて報告する。	・推進会議は2ヶ月毎に開催できた。 ・地域住民の方に多く参加して頂き、心配ごとの聴取や意見交換ができた。 ・運営会議の情報を職場会で共有するには至らなかった。	・運営推進会議では、グラフ等を用いて解りやすく説明すると共に、事例検討や改善計画等の説明も受けている。 ・地域住民の方が多く参加し、活発に意見交換され、有意義な会議であると意見ありますと意見あり。	①: 運営推進会議には管理者と職員が参加し、地域の方の困りごとや意見を聴取、共有。 ②: 運営推進会議にご利用者家族も参加していただけるようアプローチ。
F. 事業所の防災・災害対策	① 推進会議で消防訓練計画、BCPについて説明する ② 防災訓練日時が決定後、事前に推進会議出席者に案内状を送付 ③ ②の参加者も交え、年2回訓練を実施する 地域の防災訓練日程を把握し可能な限り事業所として参加。	・年2回の事業所での防災訓練は実施できたが、事前に開催日の案内ができなかった。 ・地域の防災訓練に参加できなかった。	・災害時には高齢者を持つ家族にとっては、夜間の宿泊等で利用できるなど、頼りになると考える。 ・地域の防災訓練について引き続き、アンテナを張って、機会があれば参加をお願いしますと意見あり。	①: 防災訓練（年2回）の日時を運営推進会議で発信。 ②: ①の参加者も交え、年2回の訓練実施。 ③: 地域の防災訓練の日時を情報収集し参加。

